

公共投資抑制 日本だけ

国際競争勝てたら 世界の七不思議だ



国土交通省の谷口博昭

技監は27日、「日本だけ

が公共投資を削減している、これで国際競争に勝てたら世界の七不思議だ」と国の競争力の源泉となるインフラ整備の抑制につながる公共事業予算削減論に皮肉を交え強

い懸念を示した。同日仙台市内で開かれた「フォーラム 東北は訴える」で語った。

谷口技監の七不思議発言は、▽国土形成計画を含め2007年度が重要な年になる▽公共事業批判への反論▽未来志向でのインフラ整備評価▽国と地方、官と民間の新たな役割分担のあり方――

に加え、公共事業削減の限界の理由として説明した。

具体的には、現行の公共事業削減のモデルともいわれる英国のサッチャー政権政策を踏まえ、「日本の政策はイギリスから二回り遅れている」と指摘した上で、「イギリスもサッチャー政権以後の10年間で公共事業を

5倍に増やしている。ライフサイクルに着目して公共投資を力を入れているアメリカ、アジアでも公共投資額を増やし続けている中国や韓国を見ても、投資を抑制しているのは日本だけ」と、国際競争力向上の基盤でもあるインフラ整備が進まない日本の現状に懸念を示した。